

令和 3 年度 県立大洗高等学校自己評価表

目指す学校像	・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校 ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校 ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習・文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
生活面においては、普通科第 1 学年において二人担任制を継続し、きめ細やかな指導の充実を図った。また第 1 学年全体でグループワークを LHR 等で実施したことにより、学校全体としても生活面での落ち着きにつながっていると思われる。しかし残念なことに、転退学者の数は増加に転じた。これは年度初めの新型コロナウイルス感染防止のための休校措置が影響したと思われる。今後も、社会情勢等を考慮しながら、生徒一人一人への支援・指導の充実した生徒指導を計画的に実践し、基本的生活習慣の確立、社会性や規範意識の醸成へと繋げていきたい。 学習面においては、基礎・基本を重視した学力の定着のために、少人数学習や習熟度別学級編成を積極的に導入・実施した。またこれまで実施していた校内模試を、本格的に外部模試へと切り替え、基礎・基本の定着度をより客観的に把握できるようになった。今後も、基礎学力の定着を図るための創意工夫、改善が必要である。 進路面においては、3 年連続で国公立大合格者を輩出することができたが、進路決定率 100% は 6 年連続で途絶える結果となった。これは就職において新型コロナウイルスの影響が大きかったと思われる。このような情勢の変化が見つからない今、これまでの進路指導	基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。	①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻や欠席を減らし、高校生らしい服装・頭髪、身だしなみを身に付けさせる。 ②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てるとともに、生徒の人間関係づくりを推進する。	B
	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別少人数授業、ティーム・ティーチング等を積極的に取り入れ、全教科において ICT の活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。 ⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力を定着させる。	B
	生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路室の効果的な利用を促進するとともに「進路だより」を発行し、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、キャリア・パスポートを活用して生徒の特性を把握し、生徒一人一人の希望に応じた的確な進路指導の充実に努める。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。	A
	特別活動、部活動の充実を図る。	⑨部活動等への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。 ⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。	B
	地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪学校に関する様々な情報をホームページ等により保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。	B

別紙様式2（高）

を踏まえつつ、現状に合った指導も必要となる。そのためには全校挙げての横断的なキャリア教育が必要であり、これまでの指導に加え、部活動を始めとする特別活動や地域との連携による探究活動など様々な活動を充実させていくことが今後の課題である。			⑬学校行事への住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。		B	
		生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な生徒に対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、勤務超過の時間短縮に努める。			
三つの方針		具体的目標			評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財 ②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財 ③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財			B	B 最終的な目標を達成するために各学年の目標を明確にし、その実現についても考えていきたい。 それぞれの目標実現のために、まず正確な情報の収集が必要である。そのために外部機関との関係を良好に保つ必要がある。次年度については、外部機関との関係構築と情報収集について考えていきたい。 本校のアドミッションポリシーを、中学校ばかりでなく、地域住民にも広く知っていただけるような方策を考えていきたい。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現（進学系） ②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路希望実現（資格系） ③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路希望実現（教養系） ④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現（音楽コース）			B	
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして国公立大学など高い目標を目指したい生徒 ②部活動、生徒会活動、奉仕活動などを積極的に行い、自分の将来に活かしたい生徒 ③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒			B	
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	生徒の実情にあった、基礎・基本を重視した授業を展開する。	目標を明確化した授業計画を教科ごとに策定する。④⑤⑭			A	A 次年度より導入する新しい観点別評価について、運用の徹底と基準の適正について注視したい。
		観点別学習状況による評価の研究をより進める。③			A	
		基礎・基本を重視した学習内容を策定する。③④⑭			B	
		ICTを活用し、言語活動の充実とアクティブ・ラーニングの推進を図る。③⑭			A	
国語	基礎学力の向上を図る。	授業時の小テストやノートの定期点検により、生徒の個々の状況を正確に把握し、個に応じた速度・指導法を行う体制を整える。④			A	B 言語活動やICT利活用の研究を行い、生徒が興味・関心を持って主体的に取り組む
		生徒一人ひとりの能力を把握するため、授業中や課外における机間指導や声かけを重視するなど			A	

別紙様式 2 (高)

		のきめ細やかな指導を行う。③④			ことができるようにする。さらに、次年度は生徒が自ら考え表現する機会を増やしていく。
	文学に親しむ態度の育成に努める。	作家・作品に対する興味関心をもたせる工夫をする。④	B		
	授業内容の研究に努める。	図書室の活用や図書のおすすめなどを通して、読書習慣の定着に努める。④	B		
		教材研究や評価などについて十分に研究する。⑭	B		
地理歴史	基礎学力の定着を図る。	基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。③④	B	B	体験的活動を交える工夫がさらに必要。学習内容を自らの課題としてとらえられるように授業内容を改善する。
	学力の向上を図る。	「グローバル世界における日本」を意識しながら、学習内容を自らの課題としてとらえ、深め定着させられるようにする。指導にあたっては ICT 機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。③④	B		
公民	基礎学力の定着を図る。	基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。③④	B	B	選挙権および成人年齢の引き下げに対応した授業の実施と改善を進めていく必要がある。
	学力の向上を図る。	18歳選挙権の実施を想定し、本学習を通して、次代の民主社会を担う主権者としての自覚を高める。指導にあたっては ICT 機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。③④	B		
数学	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着のため、小テストを利用して理解度を把握し、必要に応じて補講を実施する。④	A	B	高校分野ばかりでなく、中学分野の学力定着を図る方策を研究する。 授業内での ICT 機器の活用について、授業間格差がないようにする。
		少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。③④	A		
		毎時間、前時の復習をすることで授業内容の定着をはかる。④	B		
		アクティブ・ラーニングを通して生徒に考える力や表現する力を身につけさせる。③④	B		
	授業に取り組む姿勢を育成する。	授業のノートを定期的に点検し、学びの基礎・習慣をつける。④	A		
		発問の工夫をし、授業に集中させる。④	A		
		机間指導の時間を増やし、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとる。③④	B		
	授業内容の向上を図る。	教材研究を充実させ、生徒が興味関心をもてるような授業を展開する。繰り返し学習を行い、知識定着を図る。③④	B		
		教科会を密に行い、授業内容・方策等について教科内で研究協議する。④⑭	B		
		その日の授業の重要箇所を強調し、授業にメリハリをつける。③④	B		
理科	基礎・基本の学力の定着	進路に応じた指導を行う。就職活動に必要な数学の問題も授業で扱う。④⑤⑦	B	B	ICT 機器を取り入れた授業をより多く展開する。 大洗わくわく科学館などの外部機関との連携を密に
		進路に応じた課外を放課後に行う。④⑦	B		
		授業での机間指導や課題の提出を徹底し、質疑応答などの言語活動を通して理解を深め、授業に真剣に取り組む姿勢の定着を図る。③④	A		
		単元ごとに確認プリントを用意し、学習事項の理解度の把握に努める。③④	A		
		長期休業中に成績の思わしくない生徒への課外を実施し、基礎的な事項の理解を図る。④	A		

別紙様式 2 (高)

	科学に対する関心の向上	演示実験や視聴覚教材、ICT 機器の活用を積極的に図り、学習に対する関心・興味を引き出すよう努め、体験活動への意欲へと発展させる。③	B		し、地域の特徴を生かした理科学習を行う。
		大洗町生涯学習課・大洗わくわく科学館など地域との連携に努める。⑬	C		
		進路希望に応じた個別指導を実施し、発展的な内容の学習を通じて科学への探究心を養う。④	A		
保健体育	基礎体力の向上、健康保持増進を図る。	年間を通し筋力トレーニングやストレッチ運動を取り入れ運動量の確保を図り、基礎体力の向上を目指す。(体力テストAランク+体力テストBランクの割合40%を目標)④	C	B	引き続き筋力トレーニングを実施し、基礎体力の向上を目指す。 ICT を効果的に活用し、授業の充実を図る。
		必要な情報を収集し、健康で安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、課題解決能力の育成を図る。③④	B		
		運動前後の体調管理に気を配り、ケガや風邪などの防止を図る。①			
	生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力の育成に努める。	選択種目を設定し、自らが計画し状況に対応した特別ルールなどを発表する言語活動を充実させる。そして、それに基づいた運動を継続的に行えるようにする。③④	A		
	公正、協力、責任などの態度の育成に努める。	用具等の準備・片付け、また競技における審判など、各役割を分担しお互いに協力して安全に取り組めるようにする。勝負に対して公正な態度がとれるようにする。②	A		
		時間、整列、挨拶、礼儀等についても指導し、基本的な生活習慣を確立させる。①	A		
芸術（音楽）	芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め芸術の豊かな情操を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。④	B	B	引き続き、電子黒板やタブレット端末を活用した授業を研究し、言語活動の充実にも努める。多様なジャンルの音楽に触れることのできる授業について更に研究したい。
		ティーム・ティーチングを活用し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。③	B		
		様々な楽器の基礎的奏法を身につけさせ、体験活動をより充実させる。④	B		
		より多様なジャンルの音楽に触れさせる。④	B		
		鑑賞活動や表現意図を言葉にする活動を通して、言語活動の充実を図る。③④	A		
外国語	基礎学力の一層の定着	理解の不十分な生徒に対し、学び直し学習に参加させ、基礎学力の向上を図る。③④	B	B	基礎学力を向上させる。また、言語活動と ICT 活用を増やす研究を継続する。 生徒が意見を英語で発表する機会を増やしていく。
		小テスト・プリント・単語練習や大洗検定を通して生徒に達成感を味わらせる。また、言語活動や体験活動を通して英語学習の意欲を高める。③④	B		
		習熟度別少人数編成授業やティーム・ティーチングを実施し、生徒一人一人の興味・関心・疑問に答えられるようなきめ細かい指導を行う。また必要に応じて、個に応じたレベルの放課後課外を実施する。また定期考査でもレベルに合わせた考査の実施を行う。③④	B		
	学習規律の確立	授業の受け方や学習の方法（ノートの取り方・辞書の使い方）を確立する。また授業中の活動も積極的に評価の対象とする。①②③	A		
	資格取得	英検に積極的に参加するよう呼びかけ、資格取得を目指す。また、そのための課外を行う。⑤	B		
家庭	家庭生活に役立つ基礎学力の定着	衣食住を見直し、基本的な生活習慣の確立を図る。①③	B	B	ICT の活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考
		実験実習を取り入れ、実生活に生かせる授業を展開する。③④	A		
		学習ノートや課題プリントを通して、言語活動の充実を図る。③④	B		

別紙様式 2 (高)

	生徒が積極的に取り組める授業の改善	授業に臨む姿勢の確立を図る。①	A		力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
		一人ひとりの体験を取り入れ、生徒の学習意欲を引き出す。③④	B		
		校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった授業の展開と指導方法の確立や教材の開発に努める。③④	B		
情報	情報リテラシーの基礎・基本を重視した授業を展開する。	ティーム・ティーチング等を実施し、個々の生徒の疑問に答えられるよう充実した指導を行えるようにする。また、実生活との密接に関わった事例を用いることで興味関心を引き出し意欲的に授業に取り組めるようにする。③④	B	B	次年度よりプログラミング、ビッグデータ、アルゴリズムといったこれまでは扱わなかった分野に対応した授業を構築していく。
	実践例を用いて情報モラルの指導を実施する。	インターネット等の授業を行う際に、具体的な例（メールなどを利用した各種請求等）を取り上げるなどして、情報モラル・エチケットの定着を図る。さらに、生徒に発表する機会を与え言語活動も充実させる。④⑤	A		
商業	情報活用能力の育成を図る。	商業の基礎・基本に加え、ビジネスに即した情報の能力を育成できるよう個別の指導を充実させる。ビジネスの実践的な内容を交えた授業を展開し、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育み言語活動も充実させる。③④	B	B	来年度の検定試験改訂に伴う検定指導の研究および工夫を行う。
	検定試験に対応できるような授業の展開を行う。	ビジネス文書検定・電卓検定に加え、情報処理検定等に対応した授業や体験活動を行う。資格取得実現のため、放課後の課外学習を充実させる。⑤	B		
音楽	音楽に関する基礎的な知識及び法則を習得させる。	生徒の実情にあった副教材や課題を精選する。③④	A	A	次年度も継続してTTを中心とした複数名での授業を展開する中で、生徒の実態に応じて、きめ細やかで丁寧な指導の充実を図る。
		基礎理論を幅広く身につけられるようにする。③④	B		
	器楽・演奏研究の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。③④	B		
		学期に1回の技能テストに、明確な到達目標を設定し、基礎的な演奏力の伸長を図る。④	B		
		個人レッスンの充実を図り、より体験活動を充実させる。④	A		
教務	基礎・基本を重視した指導方法を研究し、生徒の基礎学力の向上に努める。	大洗検定（ベネッセ・テスト）を2・3学期始めに実施し、優秀者等を表彰する。また試験の実施・分析により本校生の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着に努める。④⑤	B	B	公務支援システムの更新に伴い、使用方法と権限範囲の見直しを行い、多くの先生方が関われるようにする。 成績不振者への対応策について、考査前後や長期休業中以外の方策を研究する。 現在、教務が担当している生徒募集について、企画は教務のままで良いが、すべての職員が関われるようにすべきである。 図書に関する目標と方策
		学習意欲を引き出す教材及び授業法の研究に教科ごとに取り組み校内研究授業を実施する。少人数編成・習熟度別授業を実施し、生徒のニーズにあった授業を展開する。授業開始時刻を徹底し、遅刻や欠席のない集中しやすい教室環境を維持する。生徒の学力の伸び率を数値化により表現する方法を研究する。①③④⑭	B		
		I C T教育並びにアクティブ・ラーニングの研究と実践に努める。③④⑭	B		
	学習の遅れがちな生徒に対する適切な指導を充実させる。	定期考査実施前1週間、必要に応じ、学習の遅れがちな生徒に対して課題学習や放課後の学習指導を行う。③④	B		
		学習の遅れがちな生徒に対して、きめ細かなサポートや長期休業中各教科で課外指導を実施し、学習内容の確実な定着を図る。④⑤	B		
	生徒募集を充実させる。	生徒の志願者の増加を目指すために、生徒募集を充実させる。教務部広報広聴担当と連	B		

別紙様式 2 (高)

		携して、学校の広報活動や資料の充実を図る。入学者の学校生活や進路状況等に関する資料を作成し、積極的に中学校へ伝える。 ⑪⑬			について検討する。
教務部 広報広聴担当	学校の活性化を図る。	本校の教育内容を学校外に公表し、学校生活に前向きな生徒や部活動を熱心に取り組む生徒の情報を把握し、学校全体の活性化に繋げる。 ⑩⑪	B	B	広報活動については、HP 以外の SNS 等の活用方法も研究し、特に地元への広報を充実させるため、ポスターやリーフレットなども活用していきたい 令和 5 年度に迎える 50 周年に向けて、周年行事を成功に導くための準備を計画的・組織的に行う。
		音楽コース県外募集については、音楽科主任と連携し、学校訪問等を積極的に実施する。また入学生出身中学に対しては、近況の報告を定期的実施する。 ⑪	A		
	開かれた学校づくりの推進を支援する。	中学校の教職員や地域の方々との交流を図る。また、学校ホームページを積極的に活用して広報広聴に努める。 ⑪	B		
	保護者及び地域との連携を深めることにより、開かれた学校としての事業を推進する。	本校の現状に即した P T A ・後援会・同窓会の活動を推進するため、年間役員会を積極的に開催する。 ⑬	B		
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	登校指導（本校昇降口）や校外指導（駅巡視や夏季休業期間の地域巡視）をはじめ、学年ごとの事業を行い、地域社会との連携に努める。 ⑫⑬	B	B	タブレット端末に関する指導に課題が残る。引き続き必要に応じて校則の見直しを行い、生徒のよりよい生活を目指す。SSW を積極的に活用して、様々な問題を抱えている生徒への対応等について話をうかがうことも必要。いじめ対策、問題行動への事後指導だけでなく、心のケアや精神的に不安定な生徒への関わり等を考えていかなければならない。
		さわやかマナーアップ運動を通して、規範意識や公共心を育成する。 ①②	B		
		頭髪・服装といった身だしなみ指導を徹底し、注意が必要な場合にはその場できちんと着こなすように指導を行う。 ①	B		
	問題行動の未然防止に努める。	生徒が規則正しい生活習慣を身につけ、遅刻や欠席が少なくなるよう HR 担任と連携を図る。また、普段から積極的に声かけを行い、生徒へ注意喚起を行う。 ①	A		
		いじめの防止（学校いじめ防止基本方針による） ①②	B		
		生徒との面談、アンケートや日頃の「声かけ」により、生徒の様子を把握する。 ①②	A		
		登下校指導や町内の巡回指導、列車添乗指導など、家庭や地域と連携を図り、校外指導を実施し、生徒事故を減少させるよう努める。 ②⑬	B		
進路指導	生徒自らが主体的に進路を選択し、希望する進路を実現できるよう支援する。	生徒指導だよりを発行し、学校での問題点や指導について家庭との協力体制を深める。 ⑪⑬	A		
		進路希望調査や面談の実施、キャリア・パスポートの活用を通じて生徒の進路希望を把握し、その実現に向けた指導体制を整える。 ⑦⑧	B	B	生徒全員が自らの適性に合った進路を選択・実現できるよう、キャリア教育を推進する。 学年・教科と連携し、進学希望者に対する組織的な指導や学習環境づくりを充実させる。
		ホームルームや総合的な探究の時間等において、3 年間を見通した進路活動を行い、各学年において習得すべき目標を定め、生徒の進路意識を高める。 ⑦⑧	B		
		2 学年で実施するインターンシップ（就業体験）では、早期からきめ細かな面接指導等を実施することで進路意欲を喚起する。 ⑦⑧	C		
	高校 3 年間を見通したキャリア教育の推進・指導体制を確	各種課外や模試を実施し、基礎学力の定着や大学入試に対応する学力の育成を目指す。特に、進学希望者に対する個別指導を充実させる。 ④⑦⑧	B		

別紙様式 2 (高)

	立する。	進路相談室（学習室）の活用を図るとともに、「進路だより」や各種ガイダンスを通して的確な情報を提供する。 ⑥⑦	B		
		企業訪問を実施し、地域と連携して就職求人数の安定を図るとともに、企業の求める人材を育成し、早期離職のないよう、学校全体で就職指導を行う。 ⑦⑧	B		
特別活動	部活動を活性化する	1年生の部活動・同好会への加入を促し、継続的な活動を行わせる。 ⑨	B	B	部活動の継続的な活動を促す。 キャリア・パスポートの有効的な活用方法をさらに考える必要がある。 生徒がより意欲的かつ主体的に活動できるように促す。
		部活動の対外的参加を促進する。 ⑨	B		
	生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図る。	現在ある学校行事の魅力を高め、生徒が意欲的かつ主体的に活動できるようにするとともに、諸行事を通してキャリア・パスポートを活用し、人間関係形成能力・課題対応能力等を高める。 ⑩	B		
		「こころのボランティア」を「道徳」やLHRと関連付け、生徒がより意欲的かつ主体的に活動できるようにする。 ⑩	C		
		生徒の自主性と責任感を育成するために、生徒会活動をより活性化する。ボランティア委員会を活用し、生徒会とともに計画的にボランティア活動を行う。 ⑩	B		
保健厚生	心身の健康づくり	保健室の充実と健康調査を定期的に行い、生徒の心身の健康管理に備える。 ①	B	B	新型コロナウイルス感染症対策の周知方法を工夫し、生徒の感染予防意識の向上を図る。 ゴミ分別の徹底と減量について研究する。
		「保健だより」を毎月発行し家庭と連携を図るとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ①②	A		
	環境美化意識の高揚	校内清掃の徹底（学期に1度大掃除）とゴミ分別・再資源化推進への意識高揚に努める。 ②	B		
		地域社会における奉仕作業へ積極的に参加する。 ②	B		
	危機管理態勢の確立	各種学校環境調査・測定に適切に取り組み、情報を速やかに開示する。防災避難訓練の計画・実施（年2回）及び「危機管理マニュアル」の利用徹底を図る。 ①⑮	B		
第1学年	基本的習慣の確立。 人間関係づくりの推進。	規則やマナーを守ることの大切さを身につけ、適切な高校生活を送る事が出来るように指導する。グループワーク等を実施し生徒の人間関係づくりを推進する。 ①②	B	B	グループワーク等をさらに活用し、よりよい人間関係づくりを目指していく。 外国人特例選抜で入学した生徒への組織的な対応を図る。
		家庭との連携を密にし、遅刻・欠席・問題行動等の指導を迅速に対応する。 ①	B		
		他学年、生徒指導部と連携し服装頭髪指導を徹底する。 ①	B		
	基礎学力の定着と向上に努める。	授業の重要性を生徒に理解させ、適切な学習態度を身につけさせる。 ①③	B		
		授業担当者で連絡をとり、学習環境を整え、生徒の学習意欲を高める指導を心がける。 ①④	B		
第2学年	進路意識の定着と向上を目指す。	進路指導部と連携し、総合的な学習の時間を通して学び直しを行い、進路ガイダンスを行うことで、各々にふさわしい進路意識の向上を目指す。 ⑦⑧	B	B	家庭と連携を取りながら基本的生活習慣の定着が見られない生徒を改善させたい。 生徒の実態を踏まえた指導の充実を図り、授業もさらに充実させたい。
	社会人として求められるマナーの確立を目指す。	生徒指導部や保護者と連携を密にし、生活習慣の定着や規範意識を徹底させる。 ①	B		
		H R活動や学年集会、学校行事を通して、社会人として通用するマナーの向上に努める。 ②⑩	A		
	基礎的な学力の定着・向上を	授業担当者で連絡を密にし、生徒の学習活動を把握するとともに、必要があれば保護	A		

別紙様式 2 (高)

	目指す。	者面談等を行う。①④		B	生徒が自己理解を深め、進路を選択し達成する力を身につけるよう指導したい。
		授業の重要性を生徒に理解させ、学習環境を整える。①③④			
第3学年	社会人として求められる基本的な学力の定着・向上を目指す。	授業担当者と連絡を密にし、生徒の学習活動状況を把握するとともに、必要に応じて保護者面談等を行う。③④	A	B	就職を希望しても、明確に就職に意欲を示さない生徒への指導が困難であった。 進路決定者に就学意欲を低下させない工夫が必要である。
		適切な学習環境を整え、授業や学習することの重要性を生徒に理解させる。③④	B		
		検定試験に積極的に挑戦し、学力向上と自己実現に向けた努力を奨励する。③④	B		
	自ら適切な進路を選択する力を育成する。	進路指導部や生徒指導部と連携し、進路決定に関わる情報をHRや総合的な探究の時間や学年集会等を通して適切に生徒に伝える。⑥⑦⑧	A		
		社会の一員としてマナーや規範意識を理解させ、習得させることに努める。①②	B		
働き方改革	勤務時間を明確にする。	「きんむくん」を活用し、出勤・退勤時間を明確にする。⑬	A	A	業務内容の見直しについては、校務分掌や委員会などをまたいでいるものが多く、学校全体で組織的に取り組む必要がある。
		月ごとに出勤・退勤時間を確認し、勤務時間を把握する。⑬	A		
	業務の見直しを図る。	各分掌、委員会、学年等において、業務内容を確認し、不要な業務の削減等、業務の軽減化を図る。⑮	B		
		必要と判断された業務については、分業と協業の機能化を図り、平業化を推進する。⑮	B		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない